

# 生きがいを持って 楽しく老後を



高齢化社会の進展は、さまざまな問題を抱えています。しかし、その一方で、芸術活動やスポーツなど各方面で元気に活躍しているお年寄り、各種教室・サークルに参加して学習意欲いっぴいのお年寄りもたくさんいらっしゃいます。9月15日は敬老の日。だれもが生きがいを持って暮らせる社会にしていきたいものです。

## 平成9年度白根市長寿番付

### 市内最高齢は石田マキさん(万年・101歳)

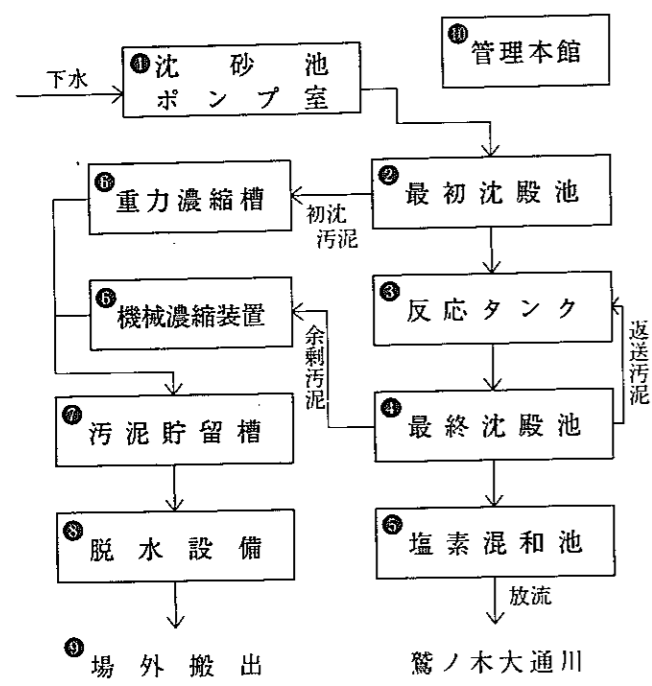
8月26日現在の市内最高齢者は、今年4月に101回目の誕生日を迎えられた石田マキさん(万年)。昨年に引き続き横網の座を守りました。西の横網は今年3月に100歳の誕生日を迎えられた藤原フキさん(西笠巻新田2)でした。

東		寿		西	
石田マキ	101歳	万年	横網	藤原フキ	100歳
笠原サキ	99歳	諏訪木4	大関	板谷ミヤ	97歳
渡辺たけ	97歳	中鷲ノ木1	関脇	若林ミヨ	97歳
杉沢ミワ	96歳	魚町1	小結	竹山アキ	96歳
滝沢常吉	96歳	朝捲	前頭1	山田ツタ	96歳
高井ミヤ	96歳	庄瀬2	前頭2	田村トリ	96歳
丸山スエ	96歳	横町甲	前頭3	中野カウ	96歳
高橋まつ	95歳	皐月町	前頭4	石田ハル	95歳
松原シツ	95歳	七軒	前頭5	池田信治	95歳
田巻和吉	95歳	上浦	前頭6	小林スエ	95歳
				西笠巻新田2	
				小坂	
				戸頭	
				新村	
				清水	
				七軒	
				白井	
				上塩	
				親和	
				杉菜	

8月26日現在。明治35年3月10日生まれまで掲載。生年月日順。敬称略

## シリーズ・白根市下水道元年

### 下水はこうしてきれになります



下水管を通って終末処理場に運ばれた下水は、次のような幾つもの施設を通り抜ける間にきれいな水に変わっていきます。

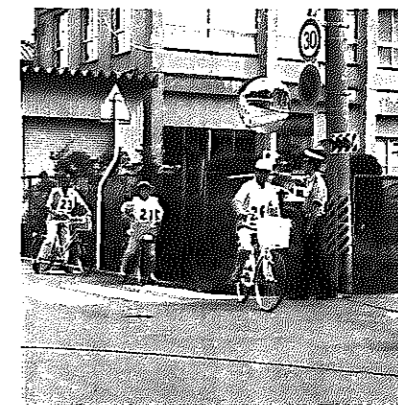
- ①沈砂池 下水の大きなごみや小石、砂などを取り除きます。
- ②最初沈殿池 この池で下水をゆっくり流すことで小さな浮遊物を沈殿させます。底にたまった泥は汚泥濃縮槽に送られ処理されます。
- ③反応タンク 最初沈殿池から送られてきた下水に、活性汚泥と呼ばれる多量の微生物を含んだ泥と空気を吹き込むと、微生物は水中の汚れを餌とし、小さな汚れが大きな固まりとなって沈みやすくなります。
- ④最終沈殿池 固まりとなった汚泥がこの池に沈み、きれいな水だけが放流されます。底の泥は汚泥濃縮槽に送られ処理されます。
- ⑤塩素混和池 見た目にきれいな水でも大腸菌などが含まれているので、塩素で消毒・滅菌し、川に放流します。
- ⑥汚泥濃縮槽 最初・最終沈殿池で発生した汚泥はこの槽の中で、後の処理がしやすいように、濃縮して汚泥の容量を少なくします。
- ⑦汚泥貯留槽 濃縮した汚泥を一定時間貯留しておきます。
- ⑧脱水設備 濃縮した汚泥に含まれている汚水を脱水機で脱水して汚泥の体積を減らします。
- ⑨場外搬出 脱水された汚泥は一般的には埋立地へ運ばれますが、白根市では将来、農業用肥料などとして利用を検討しています。
- ⑩管理本館 汚れた水をきれいにするために必要な水質試験室や電気室・研究室などがあり、処理場全体の運転が管理されます。

このように微生物の働きで有機物の分解を行う方法を活性汚泥法といい、全国ほとんどがこの方法を採用しています。処理場の規模は集まる水の量によって決められますが、きれいにした水を放流するため川の近くに造られます。

最近の優れた技術により、悪臭などの心配はありません。最近では処理場施設を活用した公園を一体的に整備する例が増えています。

このように微生物の働きで有機物の分解を行う方法を活性汚泥法といい、全国ほとんどがこの方法を採用しています。処理場の規模は集まる水の量によって決められますが、きれいにした水を放流するため川の近くに造られます。

最近の優れた技術により、悪臭などの心配はありません。最近では処理場施設を活用した公園を一体的に整備する例が増えています。



▲路上での自転車指導

### 慣れた道でもしつかり確認を

8月20日に高齢者を対象にした交通安全教室が開かれました。これは、増える

### 高齢者交通安全教室

高齢者の交通事故を防止するために平成5年から国が全国各市町村に委託して行っている参加・体験型の交通安全教室。今年度は県内で白根市と柏崎市が実施することになりました。

この日は7月に続いて2回目の開催。参加者65人が市役所周辺の道路を自転車で走り、指導員らから一時停止や右折時の指導を受けました。その後、ダンブカーによる左折時巻き込み事故の実験も行われ、踏みつぶされた自転車を前に、参加した人たちが「恐いもんだ。気を付けなきゃね」という声が聞かれました。

### 60歳から始めたジョギング 楽しく走って気分爽快

田中ミヨさん(中央通5・69歳)

「ジョギングで汗を流した後の爽快感がたまりません」と笑顔で話す田中ミヨさん。田中さんは、9月に山形県で行われる「ねりんピック」全国大会の女子5キロマラソン高齢者の部に新潟県代表として出場します。ジョギングを始めたのは60歳のときから。公民館主催の「歩け歩け運動」に参加し、その仲間から白根ジョギングクラブを結成したのをきっかけに、週に1回仲間と一緒に走り続けてきました。「若い人たちと一緒に、朝のさわやかな空気を吸い込んで走るのが、また楽しいんですよ」という田中さん。仲間に誘われて、これまでに県内各地のマラソン大会に出場してきました。高齢者でジョギングを楽しむ女性は男性に比べて少数だとか。「どの大会でも、私が一番年長みたいですね」と笑います。



今年10月の新潟マラソンには、初めて10キロの部に挑戦するなど意欲的な田中さん。「これからも楽しく走っていきたくて」と生き生きと語っていました。

### 市町村枠を超えた文化交流を

この秋、白根市、味方村、月潟村、中之口村では、住民の芸術活動の発表の場として、四市村一体となった中ノ川さわやか文化祭を開催する予定。七月から始まった公共施設の相互利用と相まって、いろいろな面で行政の枠を取り払われようとしています。

地域を超えた芸術活動の交流。それは将来の生涯学習センターの活動とも重なります。

■垣根を超えて

「同じ静物をかいても、その人によって柔らかな絵になったり、強い絵になったり。絵画って面白いですよ」と語る伊藤勉さん(曙町)。公民館の日本画教室をきっかけに、まったく経験のなかった絵の世界に入って三年、今年には市展で議長賞も受賞。「絵をかいているとストレスから逃れられ、頭をからにして打ち込める。無心になると思うんです」。

今は四市村合同のさわやか文化祭の実行委員でもある伊藤さん。「絵、書、写真などの分野ごとに作品を展示するだけでは意味がない。それらの分野を超えた人たちが一堂に会したり、近隣の著名な作家の紹介があったりすれば、芸術という面での交流はもっともっと広がる」と言います。生涯学習センターについて話を聞けると、「完成時に近隣の人たちが集まって、建物や題材に写真大会を開くというのはどうでしょう。そういう試みをしていけば、ぐっと親しみもわいて、近隣みんなの施設になり得ると思えますよ」と語ってくれました。



▶芸術がもっと身近になってほしいと語る伊藤さん